

「自動車リサイクル連携高度化」

事業成果報告会開く

リユース部品の利用促進検討

環境省は九日、東京都内で「平成二十五年度自動車リサイクル連携高度化事業等成果報告会」を開いた。

なかで日本自動車リサイクル部品協議会(本部・東京都港区、清水信夫会長)が「自動車リユース部品の利用促進のため『共創型グリーンポイントセンター』の構築に

関する実証事業」について報告。清水信夫会長(代表理事)が平成二十三年度および二十四年度の取り組み、今後の展開などについて説明した。

それによると、今まで取り組みとしてはまず、リユース部品の利用促進に向けた、利用者観点からの整備工場向けマニュアルの策定。次に、

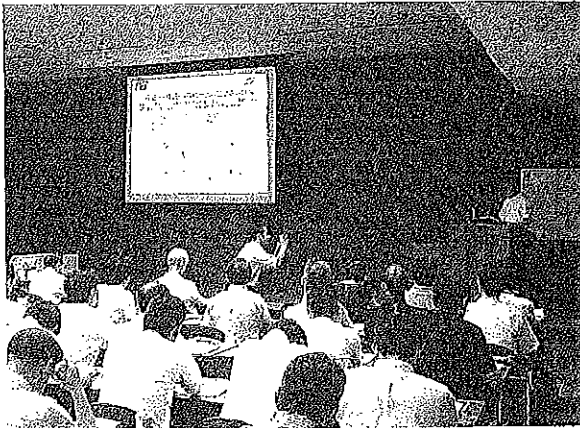
エンドユーザーに(リユース部品利用の)インセンティブを付与する「共創型グリーンポイントセンター」の構築と、整備工場や損害保険会社と連携したモデル事業の推進。さらに、システム運営上の課題抽出および事業成立要件の明確化。その経緯と結果において、利用件数割合の増加

や、修理費用の削減が見られ、運営モデルや運営原資についてもある程度明らかになっている。今後は環境省・経済産業省・国土交通省などの関係官庁や、損保協会・日整連などの関係団体と意見交換しつつ、さらなるニーズの把握と利活用の検討を進め、事業成果の具

体化を図るとした。リユース部品は「環境」の観点からその有用性・重要性が以前から言われていたものの、一般

的な認知・普及が必ずしも進まなかった。各段階や立場で、の利活用のメリットが、いまひとつ明確でなかったため。この取り組みで一つのシステムが構築されれば、一気に普及が加速する可能性もある。

当日はその他に「使用済自動車に含まれる貴金属(東京製鐵)について、属・レアアース磁石の効率的な回収・リサイクルに関する実証事業」(日本ELVリサイクル機構)、「使用済自動車由来の小型モーター(すから銅資源回収事業)」(豊田メタル)、「鉄スクラップの高度利用化調査事業」(東京製鐵)について、それぞれ報告がされた。



「平成25年度自動車リサイクル連携高度化事業等成果報告会」のもよう